

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立伊勢まなび高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が安心して楽しく学べる学校 ○ 生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校 ○ 生徒が社会に出て自立できる力を身につける学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が生き生きと楽しく学校生活を送ることができている。 ○ 生徒が自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業規律が確立し、基礎学力向上のための授業改善が常に図られている。 ○ 生徒一人ひとりのニーズに応じた学習内容とそのための支援体制が整えられている。 ○ キャリア教育が充実し、生徒自身の自己成長を支援する体制が整えられている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友人関係の構築、自分の居場所の確保 ・ 分かりやすい授業、資格取得 ・ 卒業及び希望進路の実現 <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活規律の確立及び学校生活の充実 ・ 希望進路の実現 ・ 家庭との密接な連携 <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲がありながら不登校等様々な課題を持つ生徒の受け入れ <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の規範意識の向上 ・ 生涯教育の場の提供 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活規律の確立及び学校生活の充実 <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の居場所の確保及び生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応 <p>〈カウンセラー・特別支援教育関係者・福祉関係施設・警察・行政等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の居場所の確保及び生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の規範意識の向上 ・ 生涯教育の場の提供 	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での生活規律の確立や日常生活についての情報提供 <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活等の情報提供及び生徒への連携した関わり <p>〈カウンセラー・特別支援教育関係者・福祉関係施設・警察・行政等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野における生徒への直接支援及び教職員の活動支援 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部（地域）教育力として専門知識技能の提供及び生徒の見守り
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が足並みそろえた指導を行うことにより、授業規律について成果を上げていることは評価できる。引き続き、生徒が集中して授業を受けることができるよう、高い目標を持って、全職員共通理解のもと取り組んで欲しい。 ・ 「質問や意見が言いやすい」と感じている生徒の割合が増加しており、全教職員の共通理解のもと「コミュニケーション学習」を取り入れたり、生徒とコミュニケーションをとることについて、教職員が積極的に働きかけている成果である。 ・ 学力の定着・向上には学習意欲の向上が不可欠なことから、わかりやすい授業の工夫、図書館の利用、ICTを活用するなど継続的に取り組まれることを望む。 ・ 学校行事等を通じてさまざまな体験活動や人と関わる活動を取り入れ、それらの成功体験を積み重ね、自己有用感を高められる取り組みを今後も期待する。 ・ 進学や就労活動への早期の取り組みに向け、生徒の意識改革や情報の活用等といった対応の取り組みを進めて欲しい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確保について全教職員で共通理解を図るとともに、教務部・生徒指導部・保健室・図書館等が連携することにより怠学に対する成果は上がってきているが、さらに学習意欲を引き出すための工夫改善が必要である。 コミュニケーション能力や基本的な生活規律に課題を持つ多様な生徒が毎年多く入学してきており、個の課題に応じた対応が必要である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員により単位制・三部制・多様な単位認定等の維持を確認しているが、さらに様々な課題を持つ多様な生徒の成長に資するための新たなしくみを検討していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す「わかりやすい授業」のための授業改善を進め、基礎学力の定着を目指す。 様々な機会をとらえ、生徒の社会的自立に必要なコミュニケーション能力や自己肯定感等、基盤となる素養の育成・向上を目指す。 生徒の実態を踏まえたキャリア教育を推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導のあり方についての研究を進める等、特別支援教育体制のさらなる充実を図る。 会議時間の短縮や変形労働時間制等の活用等により総勤務時間の縮減を図り、働きやすい環境の整備を推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立を図る。 基礎学力の向上を図る。 授業の充実と改善を図る。 授業でのICT等の活用を通じ学習意欲の向上を図る。 <p>【活動指標】 【成果指標】 授業に対する「興味関心」・「内容理解」・「満足度」ともに80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立に向け、全職員での取り組みや、生徒指導部を中心とした授業時間ごとの巡回指導等により以前に比べ改善されてきている。 また、教員の対応に対しても90%近くの生徒が肯定的にとらえている。 基礎学力の定着のため、「興味を引き出す授業」、「わかりやすい授業」に向けた授業の工夫改善への取組を進めている。今年度生徒アンケートでは、興味関心79%(前年比-1%)、内容理解92%(前年比+4)、満足度82%(前年比-2)となった。 グループ学習等のアクティブラーニング型授業の実践に取り組むことにより、生徒アンケートでは「質問・意見が言いやすい」86%(前年度比+1)となった。 授業でのタブレット活用14回(前年度比+1) 	◎
生徒自身の自己成長の支援	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の向上を目指す。 自己肯定感の育成を図る。 命を大切にするとともに、いじめを許さない教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員共通認識のもとコミュニケーション能力の向上にむけ、「発言しやすい雰囲気づくり」「人権感覚あふれる集団の形成」を目指した取組の実践により、生徒の中に自分の思いを発信することができたり、他者の意見を尊重しようという雰囲気が芽生え、生徒が自信を持って物事に取り組め 	◎ ※

	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりや個々の課題の克服を支援する。 ・生徒の心理理解に努める。 ・健康相談の充実を図る。 ・保健指導や保健管理を充実する。 ・図書館での生徒の成長を支援する。 <p>【活動指標】 自ら挨拶ができる生徒 50%以上</p> <p>【成果指標】 各行事等における参加率および満足度ともに 85%以上</p>	<p>るようになってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の声かけ週間実施により、90%近くの生徒が挨拶できるようになり、60%近くが自ら挨拶できるようになった。 ・全職員による見守りと情報共有、面談週間・教育相談週間の実施、いじめアンケート等の活用による生徒状況の把握、また問題行動への素早い対応と温かみのある指導を心掛けていることが生徒の落ち着きにもつながり、いじめの重大案件発生件数は0であった。 ・11月にいじめ防止週間を設定し、生徒会が中心となりピンクシャツ運動にちなみ、期間中ピンクのものを身につけようと呼びかけた。また、いじめ防止標語を募集し、全校生徒の投票により優れた作品を選び表彰するとともに、校内に掲示することで意識の向上につなげられるよう取り組みを行った。 ・人権LHR、人権教育にかかる学校行事に対する生徒の理解度・満足度はともに90%以上であった。また、人権教育通信の発行や人権掲示板の活用により、様々な人権問題について意識向上のための啓発を行うことができた。 ・生徒会行事に対する満足度は、生活体験作文発表会 86%、文化スポーツ交流会 96%、文化祭 95%であり、生徒会役員による企画・運営の主体的な取り組みと多くの生徒の積極的な参画により充実してきており、仲間との交流や協調性、自信の育成につながっている。 ・健康管理に対する意識高揚のため月刊で保健だよりを発行してきた結果、食事、睡眠など「健康に気をつけている」という生徒が6割であった。 ・調べ学習などによる図書館利用時間の総数は100時間強。生徒貸出冊数は約2,000冊(1月末現在)とほぼ例年並み。 	
<p>キャリア教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して推進する。 ・就労・就職支援の取組を充実させる。 ・ものづくりの専門性を生かした職業教育を推進する。 <p>【活動指標】 進路だよりを年間3回以上発行 進路講話等を年間3回以上実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内求人(102社 150職種) 〈前年比+9社、+23職種〉 ・進路だより(年間3回発行)、進路講話(年間3回実施)により、生徒の進路意識を高めるよう努めた。 ・9月就職試験出願者は就職希望者15名中2名(13.3%)〈前年比+3.5%〉 ・就労・就職支援の必要な生徒に対して、ハローワークへの登録、合同面接会への参加につなげた結果実習を経て内定することができた。 ・実習を通じて挨拶、服装、片づけ、掃除を習慣化することで、それらを自主的に行うことができるようになる。また、安全意識の高まりにもつながっている。 ・ものづくりの実習アンケートでは、「実習内容 	

が理解できた」「工具の使用・機械の操作がうまくできた」「わからないところを教員に質問できた」「前向きに取り組めた」等全ての項目で 90%以上が肯定的に回答。

改善課題

- ・学習意欲の向上に向けた取組のひとつとして、タブレットを効果的に活用した授業の実践事例等について学べる機会を設けるなど検討を深めていく必要がある。
- ・生徒一人ひとりの自信と自己肯定感を育成するため、小さな成功体験が積み重ねられるような場面づくりを、今後も継続して工夫していく必要がある。
- ・命を大切に、いじめを許さない教育の推進に向けて、今後も生徒に寄り添い、生徒の心情に沿った温かみのある指導を継続するとともに、生徒会を中心に生徒が主体的に取り組めるような活動を工夫していく必要がある。
- ・進路意識を高め、早期に進路選択とその実現に向けての行動が起こせるよう、より一層計画的にキャリア教育を進めていくとともに、ミスマッチによる早期離職を防ぐという視点からも就労に対する意識向上への働きかけを工夫する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導に向けたしくみ・体制づくりを進める。 ・対象生徒への支援を行う。 ・支援システムの構築と充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導実施に向け、対象生徒の選定方法を整え、教育課程及びシラバスを見直し指導内容を準備。また、個別の指導計画の作成、評価方法や指導要録への記載方法等を整えた。 ・特別支援教育推進委員会を年間 5 回、現職教育を 4 回、「ケース会議」を 17 回実施するとともに、職員全体での情報共有の場を設けた。 ・担任が発達障がい支援員への相談を行いやすいよう支援員の居室を保健室から職員室に変更した。 	◎
総勤務時間の縮減及び働きやすい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「定時退校日」を設定する。 【活動指標】月 1 回設定 ・「部活動休養日」を設定する。 【活動指標】週 1 回以上設定 ・会議を 1 時間以内に終了する。 【活動指標】90%以上 ・休暇取得日数の現状を維持する。 【成果指標】15 日以上/人 ・時間外労働時間の縮減を図る。 【成果指標】全体の月平均 3.5 時間以内 月 80 時間を超える教職員無 ・長期休業期間中に学校閉校日を設定する。 【活動指標】2 回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・「定時退校日」(月 1 回設定)には、ほぼ 9 割の職員が定時に退校している。 ・各クラブとも、従来から週 1 回以上の休養日を設定。「部活動運営方針」にも活動日・活動時間を明記した。 ・資料を事前に配付するなど会議の効率的な運営に努め、ほとんどの会議を 1 時間以内に終了することができた。 ・月 45 時間超労働の該当者は少なく、超過勤務時間を振替休暇や勤務時間の割り振り調整等の制度を活用することにより解消できつつある。また、一日内の超過勤務時間が出ないようにズレ勤等の利用も推進した。 	

・休暇が取得しやすくなるよう、学校閉校日（年 2 回設定）の設定日を工夫するなど年次有給休暇・夏季休暇の取得を促した。

改善課題

- ・特別支援教育を進めるにあたって、これまでも全職員での情報交換や連絡・相談等を行い、学校全体で生徒を支援する体制で臨んできているが、次年度からの「通級による指導」を充実したものとしていくためにも、より一層職員の共通理解のもと取り組んでいけるよう、校内体制づくりを整備していく必要がある。
- ・会議の効率的な運営や勤務に係るさまざまな制度を活用することにより、超過勤務時間が出ないように努めていくとともに、休暇取得については多くの教職員が一定程度以上取得している現在の水準を維持していきたい。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着の向け、「わかりやすい授業」のための工夫と改善への取組、授業規律の改善への取組が積極的に進められ、授業への興味関心を高める努力がなされている。今後とも全職員が意識と情報を共有して取り組んでいってほしい。 ・学習意欲向上につながるよう ICT を活用した教育の充実に向け、他校の実践例等を参考に指導方法や授業で有効に使えるソフトの整備に努めていって欲しい。 ・中学校時代には学校生活や集団生活に馴染めず、不登校を経験し自信をなくしていた生徒達が、高校での学習活動や生徒会行事等への参加を通して、自分の意見を発信したり小さな成功体験を積み重ねることで自信と自己肯定感を持てるようになるとともに、他者の意見も尊重できるようになってきているのは、全教員共通認識のもとでの取組の成果といえる。今後も様々な活動に生徒が自主的・積極的に参加できる仕組みを工夫しながら、自己成長できるよう支援の継続をお願いする。 ・早期から進学や就職について意識づけを図るため、職場体験等の機会を積極的に設け、生徒自身が体験を通じて卒業後の進路について考えるきっかけづくりをお願いしたい。また就労意識向上のため、仕事と人生の関わりや必要性について理解を深めることのできる取り組みを継続的に進めていって欲しい。 ・アルバイトが学習を妨げる要因の 1 つとなっていることがアンケートより見受けられる。学校生活とアルバイトのバランスの取れた働き方を指導していく必要がある。また、体が完成していく大切な時期であることも踏まえ、就寝時間や食事のことなど正しい生活習慣についても指導を進めて欲しい。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と向上に向け、より一層授業内容への興味関心を高め、内容の理解を深めることができるよう、授業の工夫・改善に継続的に取り組んでいく。 ・生徒が進路選択とその実現に向けて早期から取り組むことができるよう、意識づけのための働きかけを工夫する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導の実施にあたり、合理的配慮のあり方についての意義と必要性について、全職員の共通理解のもと指導体制を構築していく。